

日本語教師養成講座実習報告

学習者とともに「学習する」という気持ちで臨みたい
国際言語文化学科3年 清水李枝



日本語教育実習を通して臨機応変に対応することの難しさを感じました。授業のために1週間ほど前から教案と教材を作成し、授業リハーサルを行って準備をしてきました。しかし実際は予想以上に時間がかかってしまったり、学習者からの反応が教師の考えていたものと全く違ったりしました。そのたびに時間がないから次に進まなければと焦って、なぜ学習者そのような表現を使ったのか、今学習者に必要なことは何か、ということを考えることができませんでした。教案通りに「これを教えなければ」という思いが強く、ひとりひとりレベルの違う学習者に目を向けることができていなかったと思われました。

何事にも動揺することなく落ち着いて臨機応変に対応できるようになるには、教師として経験を積むことが第一だと思います。その際教師が「教える」という気持ちではなく、学習者を受け入れるとともに「学習する」という気持ちで臨みたいと思いました。

実習はとても大変でしたが、頑張り続ければ、将来も明るくなると思います。

国際言語文化学科4年 崔琴（中国）



三週間の日本語教育実習を経て、かなり成長したと感じました。

教壇に立ち、チョークをにぎって日本語教師をするなど、夢にも考えたことはありませんでした。ですが、「やれば、できる。」と思って頑張り続ければ、私でも日本語教師になれるのです。

別府大学に日本語教育センターが設置されていることは、私たち実習生にとって、どれだけ幸運なことだろうと思います。

今まで実習や模擬授業を何回もしたことで、貴重な経験をたくさん得られたと感じます。

また、課外活動にも参加しました。留学生との楽しいバス旅行を通じて、生の日本文化に接することもできました。

日本語教育実習はとても大変でしたが、頑張り続ければ、将来も明るくなると思います。

アミボイスを活用した音声教育

—日本語教育研究センターの日本語授業—

担当教員 工藤美佳 太田由紀子

Q1 アミボイスソフトとは何ですか？

日本語学ぶ留学生を対象にした、発音矯正ソフト「AmiVoice CALL Web-Japanese-」（発売元：株式会社アドバンス・メディア）です。このソフトで、発音練習や聞き取り練習などができます。



Q2 どんな学生が使っていますか？

本学及び本学短期大学部で学ぶ留学生が対象です。週一回。アカデミックスキルという授業の中で使用しています。

Q3 どんな効果がありますか？

聞き取り練習や苦手発音練習が自分のペースででき、統計履歴などで上達が視覚的に確認できるので、聞く、話すの苦手分野が楽しく練習できます。

Q4 学生の反応はどのようなですか？

自分の苦手なところがわかった、苦手と分かっているにもかかわらず練習できなかったところが繰り返し練習できてよかった、評価が毎回上がっていくのが楽しかったなど、概ね好評でした。

デュッセルドルフ（ドイツ）滞在記

篠崎大司（国際言語文化学科兼日本語教育研究センター准教授）

去る2012年3月9日～11日の3日間、第18回ドイツ語圏大学日本語教育研究会シンポジウムがデュッセルドルフ大学を会場に開催されました。このシンポジウムは、毎年行われるもので、今回は「eラーニングを活用した日本語教育—その可能性を探る—」をテーマに、講演、発表、実践報告、各種eラーニング体験が行われました。私篠崎も招聘講師として参加し、現地の日本語の先生方を前に、現在開発している外国人向け日本語eラーニング教材を紹介しました。

今回のテーマの背景には、多くのドイツ語圏の大学が抱える日本語教員1人当たりの学習者数の多さ（1学年150名前後に教員5名や1クラス40名といった例も少なくない。）や、各大学が進める教育のIT化への対応があるのだそうです。

今回初めて参加しましたが、会員のほとんどが参加するほどの盛況ぶり、参加者の問題意識や実行力の高さに、ドイツ語圏日本語教育の力強さと将来性を強く感じました。



筆者、ケルン大聖堂前にて

ソウル（韓国）滞在記

篠崎大司（国際言語文化学科兼日本語教育研究センター准教授）

去る2012年7月27日～30日の4日間、韓国ソウル市にあるサイバー韓国外国語大学にて「Moodleを活用した上級日本語文法コンテンツの開発と実践事例」と題した講演をしました。

サイバー韓国外国語大学は、韓国でも有数の外国語大学である韓国外国語大学の姉妹校で、授業の全てをインターネット上で行うサイバー大学です。2012年1月、別府大学と交流協定を結んだことを機に、私の開発した日本語学習者向けのeラーニングコンテンツを、2012年後期から、正規の授業として導入することになりました。

今回の講演は、開講に先立ち、サイバー韓国外国語大学で日本語を学ぶ学生の方（もちろん韓国人です。）および日本語の先生方を対象に、導入するeコンテンツの内容と別府大学での実践事例の紹介が大きな目的でした。

講演に参加した学生さんは、皆さん日本語がとても上手でした。



サイバー韓国外国語大学で講演をする筆者



ソウル崇礼門（南大門）の修復現場を見学